

松前の 防災力

総務課危機管理係
☎ 985-4103

地域で実践しよう 防災図上訓練

1月15日、県・市町災害対策本部合同運営訓練が開催され、本町でも庁舎内で図上訓練を行いました。図上訓練とは、体を動かすのではなく、机上で地図などを使って防災対策を行う訓練のことです。



訓練の様子

今回の訓練では、県内災害震度7の南海トラフ巨大地震により揺れや津波などの被害が発生。地震発生から24時間後の災害対策本部の対応を想定して行われました。具体的な活動は次の通りです。

- ▶被害情報などの収集・整理
- ▶通報、人命救助・医療救護活動
- ▶避難所の開設・運営、避難住民の救援
- ▶津波・道路途絶による孤立地区の対応

被災状況を把握し、的確な支援・物資供給をするため、各機関と連携しながら、地図上に現状を書き込んでいきました。



● どうして図上訓練は大切なのか？

事前に危険を予測したり、想定外の事態を減らしたりするためです。被害想定を基に、起こりうる事態などを話し合い、どのような対策や連携が必要かを検討していくことで、参加者の中で共通認識を持つことができます。そうすることで、今後必要な対策や装備、現在の防災マニュアルの見直し、他の機関との連携方法など、今後の取り組みに生かしていくことができます。

● 図上訓練は地域でも大切

各地域でも、図上訓練を行うことは大切です。

災害時、町が災害対応を行っていく上で、各地域の被害状況は地域の声などを基に把握していきます。地域で被害状況が把握できていないと、迅速・正確に対策を進めていくことが難しくなります。

また、大規模災害時は、行政機関などの「公助」ではなく、地域で協力し合う「共助」や「自助」が大切になります。地域の人たちが協力して避難所設営などを行う上でも、事前に図上訓練を行って、対策を立てていくことが求められます。

図上訓練は、大勢が参加しなくとも限られたスペースで行えます。この機会に、地域で実践してみてください。

図上訓練の方法（地域で行うことができる一例）

- ①白地図を用意し、「どこで、どの程度の規模の災害が起こり、被害はどのくらいか」を書き込む。
 - ②次のテーマを参加者で話し合い、付せんを使って地図に書き出していく。
 - ・災害時に危険な場所、比較的安全な場所
 - ・避難経路（年齢などさまざまな場合を想定）
 - ・人、物の協力体制について
 - ③付せんの内容を確認し、課題を共有する。
- ※この他、白い紙と付箋を使い、避難所での運営方法、負傷者への対応なども検討ができます。